

# 第四次長野市スポーツ推進計画 骨子案

長野市

# 目 次

---

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 第1章 計画策定にあたって .....               | 1  |
| 1 計画策定の背景と目的 .....                | 1  |
| 2 計画の位置づけ・期間 .....                | 2  |
| 第2章 国・県・他計画の方向性の整理 .....          | 3  |
| 1 国が示す基本理念と方向性 .....              | 3  |
| 2 長野県のスポーツ施策の動向と市町村との連携の考え方 ..... | 4  |
| 3 長野市におけるスポーツ分野の位置づけ .....        | 5  |
| 第3章 第三次長野市スポーツ推進計画の評価 .....       | 7  |
| 1 計画の達成状況 .....                   | 7  |
| 2 進捗評価と課題 .....                   | 7  |
| 第4章 長野市のスポーツを取り巻く現状と課題 .....      | 8  |
| 1 高齢化や医療費等の状況 .....               | 8  |
| 2 子どもの体力や部活動の状況 .....             | 10 |
| 3 成人のスポーツ実施の状況 .....              | 11 |
| 4 「支える」スポーツや障害者スポーツの状況 .....      | 12 |
| 5 スポーツ施設の現状と課題 .....              | 14 |
| 6 地域密着型プロスポーツチーム等による地域への影響 .....  | 17 |
| 7 スポーツコンベンションの現状と課題 .....         | 20 |
| 8 市民がスポーツに求めるもの .....             | 21 |
| 第5章 長野市スポーツの強み・課題と方向性 .....       | 22 |
| 1 SWOT 分析による長野市スポーツ事業の現状の整理 ..... | 22 |
| 2 クロス SWOT 分析による戦略の抽出 .....       | 23 |
| 3 本計画で取り組むべき方向性 .....             | 23 |
| 4 スポーツ推進により創出すべき価値 .....          | 24 |
| 第6章 本計画における基本構想 .....             | 25 |
| 1 本計画における基本理念と目指す姿 .....          | 25 |
| 2 本計画の基本目標 .....                  | 25 |
| 3 施策体系 .....                      | 30 |

# 第 1 章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の背景と目的

国では、『スポーツ基本法』(平成 23 年制定)やこれまでの『スポーツ基本計画』に基づき、「一億総スポーツ社会」の実現を目指してスポーツ施策を推進してきました。

しかし近年、急速な少子高齢化・人口減少、気候変動やデジタル化の進展など、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変化しています。これに伴い、スポーツを通じた社会課題の解決や、国民と社会の『ウェルビーイング(心身の健康と幸福)』の向上に対する期待が高まっていることから、こうした現状に対応するため、国は令和7年6月に『スポーツ基本法』を改正するとともに、新たな目標を掲げた『第4期スポーツ基本計画』を策定しました。

本市では、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催地として、世界のトップアスリートが生み出した感動や貴重な「オリンピックレガシー」を脈々と継承しながら、これまで「スポーツを軸としたまちづくり」を進めてきました。国の『スポーツ基本法』の規定に基づき、平成 24 年4月には『第一次長野市スポーツ推進計画』を策定し、以降、見直しを行いながら、多様なスポーツ機会の提供や環境整備を推進してきました。

本市では、国と同様に少子高齢化や人口減少が進行しているほか、令和元年東日本台風災害の発生や新型コロナウイルス感染症の拡大等により、スポーツを実施する環境、機会が大きく変化しています。こうした変化に対応し、健康寿命延伸に寄与する生涯スポーツの推進や総合型地域スポーツクラブと連携した地域における自主的なスポーツ活動の促進、障害者スポーツを含めた総合的なスポーツ推進などを実施してきました。また、本市をホームタウンとする4つの地域密着型プロスポーツチームと連携することで、スポーツによる地域の活性化につなげてきました。さらに、近年ではスポーツ施設の長寿命化や運動部活動の地域展開、飯綱高原合宿拠点の整備、未来に向けた持続可能なスポーツ環境づくりやスポーツ基幹産業化等に関する調査研究などにも取り組んでいます。

令和 10 年には、長野オリンピック・パラリンピック開催から 30 年を迎える他、本県で「第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会」が開催されます。本大会は単一の大型イベントにとどまらず、関連する施策を全庁横断的に推進し、本市のスポーツ政策を一層飛躍させる契機として位置づけることが求められています。

以上の国の法改正や新たな政策動向、さらには本市が直面する多様な地域課題に的確に対応していくため、これまでのスポーツ計画を時代の変化に合わせて見直し、本市のスポーツを総合的かつ計画的に推進するための新たな指針として、『第四次長野市スポーツ推進計画』(以下、本計画)を策定します。

## 2 計画の位置づけ・期間

### (1) 上位計画と関連計画

本計画は、平成 23 年6月に制定(令和7年6月一部改正)された『スポーツ基本法』(平成 23 年法律第 78 号)第 10 条第1項の規定に基づき、本市独自の計画として策定するものです。

「第六次長野市総合計画」のスポーツ分野の個別計画(「第六次長野市総合計画」に示された施策を具体的に実施する行動計画)として位置づけます。

本計画は、国・県が策定する計画を参照し、施策の整合を図ります。また、本市が策定する他の個別計画に部分的に関わる計画としても位置づけ、連携して施策・事業を展開します(第2章にて後述)。

なお、第三次長野市スポーツ推進計画では、本計画に「ホームタウン NAGANO まちづくり連携推進ビジョン」を統合し、一体的に施策を推進していきます。

### (2) 計画の期間

計画期間は、「第六次長野市総合計画前期基本計画」と同様に、令和9年度から令和 13 年度までの5年間とします。ただし、この期間中、進捗状況や社会情勢の急激な変化、また国の『スポーツ基本計画』及び県の『スポーツ推進計画』の施策の展開を踏まえ、必要に応じて見直すものとします。

## 第2章 国・県・他計画の方向性の整理

### 1 国が示す基本理念と方向性

#### (1) 改正スポーツ基本法で示されている基本理念

令和7年6月に改正されたスポーツ基本法では、スポーツが人々に楽しさや喜びをもたらす価値に加え、地域や経済の活性化、健康長寿社会や共生社会の実現、デジタル化の中での豊かなつながりなど「社会課題の解決」に寄与することが明記されました。また、スポーツの持つ多様な価値を通じて、国民と社会の「ウェルビーイング」を向上させることが基本理念として明確に位置付けられています。

#### (2) 第4期スポーツ基本計画の目標と重点課題

国の第4期スポーツ基本計画では、以下のねらいと3つの重点課題が示されています(図表 1)。

##### 【計画のねらい】

『スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く』

##### 【3つの重点課題】

重点課題1:国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた、ウェルビーイングの向上や経済成長・豊かな社会の実現への貢献

重点課題2:ハイパフォーマンスの追求とアスリート等を取り巻く環境整備による、成果・知見の社会への還元

重点課題3:スポーツの意義や価値を生かした地域・社会への貢献

図表 1 第4期スポーツ基本計画の目標と重点課題



出典:スポーツ審議会「第4期スポーツ基本計画の策定について 中間報告」

### (3) 自治体に求められる新たな環境整備

第4期スポーツ基本計画では、子どもから高齢者、障害のある人まで、ライフステージに応じたシームレスなスポーツ機会の創出に加えて、時代変化に応じた環境整備として、地方自治体には以下の対応が求められています。

- 部活動の地域展開の推進
- 気候変動(熱中症対策、天候に左右されない施設環境整備等)への対応
- スポーツ施設等の価値を最大化する「スポーツコンプレックス」によるスポーツの成長産業化
- スポーツのインテグリティ(誠実性・健全性)の確保
- DX 推進による施設の利便性向上や部活動の地域展開への活用(指導者と生徒のマッチング、活動管理等)

#### 【本計画に求められること】

- 個人がスポーツに親しみ、楽しむことに加えて、スポーツの多面的な価値を活かし、スポーツを通じて地域や個人のウェルビーイングを向上していくこと。
- 具体的には、スポーツを通じた地域経済の活性化や、健康寿命の延伸、だれもが分け隔てなく社会参加でき相互に理解し合う共生社会の実現、地域コミュニティの再生といったさまざまな地域課題の解決に寄与していくこと。

## 2 長野県のスポーツ施策の動向と市町村との連携の考え方

### (1) 長野県の政策動向

長野県では、スポーツを従来の「教育・競技振興」にとどまらず、地域コミュニティの再生や健康増進、経済活性化、共生社会の推進といった「多様な社会課題を解決するための手段」として位置づけ、「信州スポーツオープンイノベーションプラットフォーム(SOIP)<sup>1</sup>」や「パラウェーブ NAGANO」といった、プロスポーツチームや民間企業、関係団体等との協働によるプラットフォーム型の推進体制の構築を進めています。

### (2) 市町村との役割分担・連携の考え方

県は指針の提示、用具貸出や研修などの環境整備・側面支援、広域連携の仲介を担い、一方、住民に最も近い基礎自治体である市町村は、様々な分野における具体的な施策の企画・実施主体としての役割が期待されています(図表 2)。また、長野県全体のスポーツ推進にあたっては、先進市町村において実証・構築された成功モデルを、全県へ横展開していくアプローチが重視されており、特に中核市が他市町村をリードしていくことが期待されています。

<sup>1</sup> SOIP(Sports Open Innovation Platform:スポーツオープンイノベーションプラットフォーム)

スポーツ界の資産と他産業の技術やノウハウを組み合わせ、新しい商品やサービスを生み出す仕組み。スポーツの成長産業化や地域の活性化を目指し、スポーツ庁が中心となって推進しています。「信州 SOIP」はその長野県版として、県内8つのプロスポーツチームや多様な分野の事業者等が参加しています。

図表 2 分野ごとの県と市町村の連携の考え方

| 分野                 | 市町村との連携の考え方                                                                            |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 部活動の地域展開        | ・県は指針の提示や体制構築等の側面支援を担い、市町村が主体となって推進する<br>・県内の先進事例・成功モデルを横展開し、全県的な事業推進を図る               |
| 2. 障害者スポーツの推進      | ・県は用具貸出や研修等の基盤整備を担い、市町村はそれらの活用を促進し、身近な体験機会を創出する<br>・協働して国スポ・全障スポに向けたボランティア確保や市民啓発を実施する |
| 3. 総合型地域スポーツクラブの展開 | ・財政的自立を前提に、受け皿となるクラブの運営・育成支援を市町村が担う<br>・県および県スポーツ協会は、研修会の開催や広域的な広報・周知を支援する             |
| 4. スポーツ実施率の向上      | ・働く世代・子育て世代・女性層へのアプローチを県・市共通の最重要課題とする<br>・県が推進する「SOIP」やプロチーム・民間企業との連携枠組みを活用する          |
| 5. コンベンション・合宿誘致    | ・銀座 NAGANO の MICE 推進員や拠点事務所等を活用し、仲介・情報発信を行う<br>・施設やプロスポーツ等に関する情報を密に共有し合う               |
| 6. スポーツによる社会課題解決   | ・SOIP 等を活用し、県・市町村・プロスポーツチーム・民間企業がオープンに連携する                                             |

【本計画に求められること】

- 先進モデルの創出と横展開  
一部活動の地域展開や総合型地域スポーツクラブの持続可能な運営等において、他市町村のモデルとなる先進事例を構築・発信していくこと。
- 重点ターゲット層へのアプローチ  
共通の最重要課題である「働く世代・子育て世代・女性層」のスポーツ実施率向上に向け、プロチームや民間企業等と連携し実効性ある施策を展開すること。
- スポーツを通じた社会課題解決の具体化  
県の信州 SOIP や観光・MICE 機能との連携を活用し、スポーツの多面的価値を活かした地域活性化の実現を主導すること。

### 3 長野市におけるスポーツ分野の位置づけ

#### (1) 総合計画におけるスポーツ分野の目標

第六次長野市総合計画では、

目指すまちの将来像「幸せを未来へ紡ぐ『ながの』～住みたいまちはみんなで創る～」を実現するために、13 の分野で 35 の政策を設定しています。スポーツ分野では、

「スポーツを通してまちに活力が生まれている」

ことを目指し、

- 1 誰もがスポーツを楽しめる環境づくりの推進
- 2 スポーツを通じた交流拡大の推進
- 3 スポーツを活かした地域経済の振興

の3つの政策を掲げています。本計画は、これらの政策を具体化し、実行するための個別計画です。

#### (2) 関連計画におけるスポーツの位置づけ

本計画は、本市が策定する各分野の個別計画(図表 3)と相互に関わり合っており、施策の実行に当たり、関係各課と連携していく必要があります。

図表 3 連携する主な個別計画

| 関連計画                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長野市教育振興基本計画<br>長野市生涯学習推進計画<br>長野市健康づくり計画(ながの健やかプラン 21)<br>長野市高齢者福祉計画・長野市介護保険事業計画(あんしんいきいきプラン 21)<br>長野市障害者基本計画<br>長野市観光振興計画<br>長野市公共施設等総合管理計画・公共施設個別施設計画 |

【本計画に求められること】

- **第六次長野市総合計画の具体化**
  - ー一人ひとりがスポーツを楽しむことに加え、地域経済の活性化やコミュニティの再生、フレイル予防など、まちづくり全体にスポーツの力を活用し、総合計画が目指す将来像の実現に寄与すること。
- **関連計画との横断的連携と施策の相乗効果の創出**
  - ー教育(体力向上、部活動地域展開)、生涯学習・健康・高齢者(健康寿命延伸、フレイル予防、生きがいづくり)、障害福祉(障害者スポーツ、共生社会)、観光(オリンピックレガシー、スポーツツーリズム)など、各分野計画におけるスポーツの役割を包含し、分野横断的な連携により、施策の相乗効果を生み出していくこと。
- **持続可能で質の高いスポーツ環境の保全と有効活用**
  - ー公共施設等総合管理計画等に基づき、老朽化するスポーツ施設の適正配置や計画的な長寿命化工事を進めるとともに、施設の拠点化(多機能化)や民間ノウハウ・多様な財源の活用により、将来にわたり安全・安心で持続可能なスポーツ環境を構築すること。

## 第3章 第三次長野市スポーツ推進計画の評価

本章では、本計画策定時点における「第三次長野市スポーツ推進計画」の指標や取組の評価を行い、本計画における課題を整理します。

### 1 計画の達成状況

第三次長野市スポーツ推進計画で設定した9指標の達成状況を図表 4 に示します(達成=◎/未達成=△)。令和7年度の段階で既に達成しているものが4指標あり、他の指標も目標達成に向けて順調に推移していますが、「成人のスポーツ実施率(週1回以上)」は令和2年度の基準値を下回っています。

図表 4 第三次長野市スポーツ推進計画 指標一覧

| 大柱                         | 中項目                           | 設定指標名                           | R2現状値<br>(基準値) | R7実績値    | R8目標値    | R7年度までの<br>達成状況 | 評価・要因                                          |
|----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|----------------|----------|----------|-----------------|------------------------------------------------|
| 【施策1】だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進 | 施策全体指標                        | 成人のスポーツ実施率(週1回以上)               | 59.9%          | 54.3%    | 65.0%    | △               | R5(63.8%)までは維持していたがR6以降低下傾向となり未達成              |
|                            | 施策1-1 スポーツ人口の拡大               | スポーツ教室の参加者数                     | 1,266人         | 1,582人   | 1,330人   | ◎               | 計画期間を通じて目標値を継続して上回り達成                          |
|                            | 施策1-2 地域における自主的なスポーツ活動の促進     | 総合型地域スポーツクラブの会員数                | 1,091人         | 1,552人   | 1,150人   | ◎               | 近年会員数が順調に伸びており達成                               |
|                            | 施策1-3 スポーツを通じた共生社会の実現         | NAGANOパラ★スポーツデーへの参加者数           | 400人           | 178人     | 1,000人   | -               | NAGANOスポーツ・パラスポーツフェスティバルに統合し、障害者スポーツの普及に取り組んだ  |
| 【施策2】スポーツを通じた交流拡大の推進       | 施策1-4 競技スポーツの普及と競技力の向上        | 競技団体の登録者数                       | 18,120人        | 確認中      | 19,000人  |                 | 各競技団体との連携により、競技者・登録者の基盤維持を確実に実施                |
|                            | 施策全体指標                        | 地域密着型プロスポーツチームホームゲーム開催による経済波及効果 | 19.6億円         | 38.7億円   | 41.3億円   | △               | 全体でみると増加傾向にあるが、目標値達成しているのは信州ブレイブウォリアーズのみとなっている |
|                            | 施策2-1 地域密着型プロスポーツチームとの連携の推進   | 地域密着型プロスポーツチームのホームゲーム入場者数       | 79,408人        | 216,495人 | 366,000人 | △               |                                                |
|                            | 施策2-2 国際大会や全国大会などの誘致・開催       | 国際大会・全国大会等の開催数                  | 5回             | 13回      | 10回      | ◎               | エムウェーブやホワイティング等を活用した大規模大会の誘致・開催により達成           |
|                            | 施策2-3 オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進 | オリンピック・パラリンピックムーブメント事業の開催数      | 2回             | 4回       | 3回       | ◎               | 長野マラソン、オリンピックデーラン、中学校オリンピック教室等を継続開催し達成         |

### 2 進捗評価と課題

#### (1) 施策の進捗評価

計画期間中、市民向けスポーツ教室の拡充、障害者スポーツ体験・出前講座の定着、部活動地域展開の環境整備に加え、オリンピックレガシー事業の開催、国際大会等の誘致・開催、一校一国運動の推進など、本市や関係主体が主導し、事業の実施や環境整備を進めました。

#### (2) 本計画策定に向けた課題

スポーツをする機会の拡充を進めているものの、一人ひとりのスポーツ実施には十分につながっていないことが伺えます。スポーツにアクセスできていない、またスポーツをしたくてもできない潜在層にどのようにアプローチしていくかを、本計画で定め、実行していく必要があります。

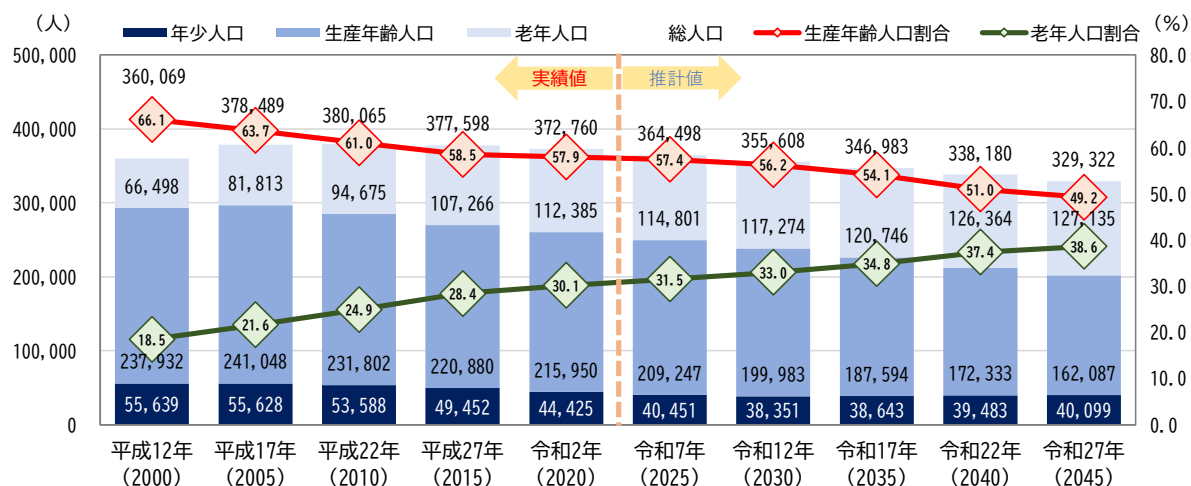
## 第4章 長野市のスポーツを取り巻く現状と課題

本章では、統計資料や各種調査結果から得られたデータに基づき、本市のスポーツを取り巻く状況やスポーツ推進における課題を概観します。

### 1 高齢化や医療費等の状況

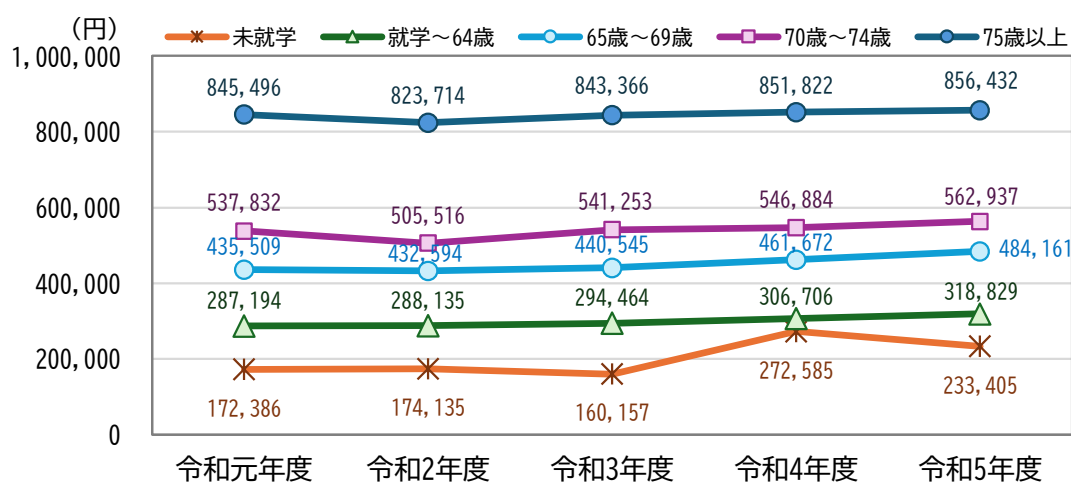
人口の推移を年齢3区分別にみると、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)ともに減少している一方、老年人口(65歳以上)は増加し続け、高齢化率はすでに3割を超えています(図表5)。老年人口の増加に合わせて医療費や介護給付費が徐々に膨らみ、財政負担が大きくなっています(図表6、図表7)。また、総人口が減少するなか、世帯数は増えており、核家族化や単身世帯の増加が伺われます(図表8)。

図表5 年齢3区分別人口の推移と将来推計



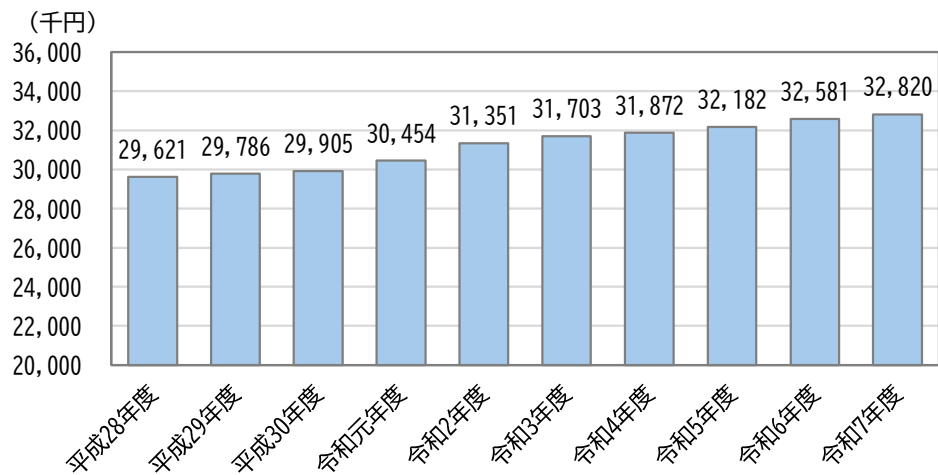
出典：長野市 企画課

図表6 一人あたりの医療費の推移



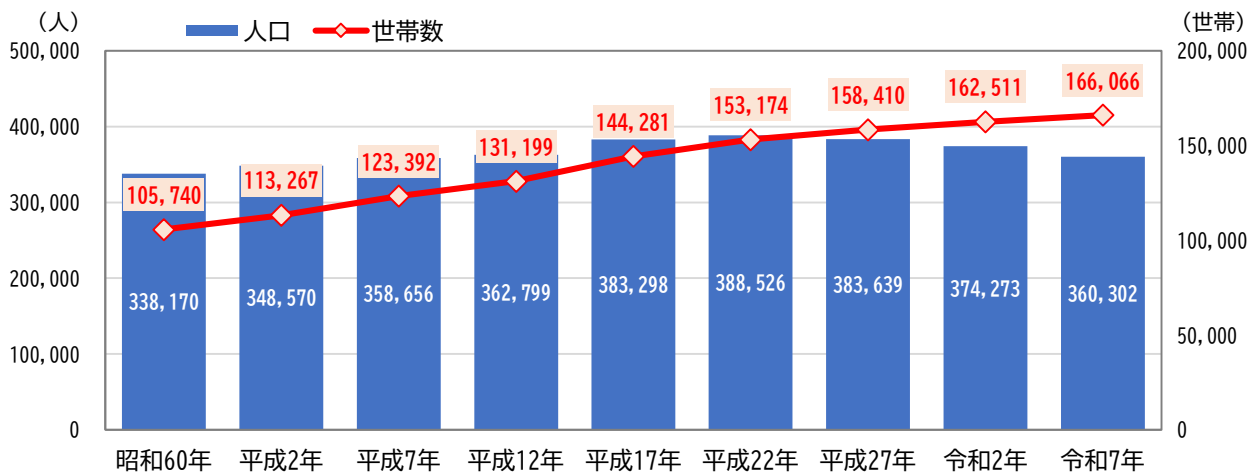
出典：令和6年 第1回長野市国民健康保険運営協議会 資料  
長野県後期高齢者医療広域連合 後期高齢者医療事業年報

図表 7 介護給付費の推移



出典：長野市保健福祉部介護保険課「介護保険実施状況」

図表 8 世帯数の推移



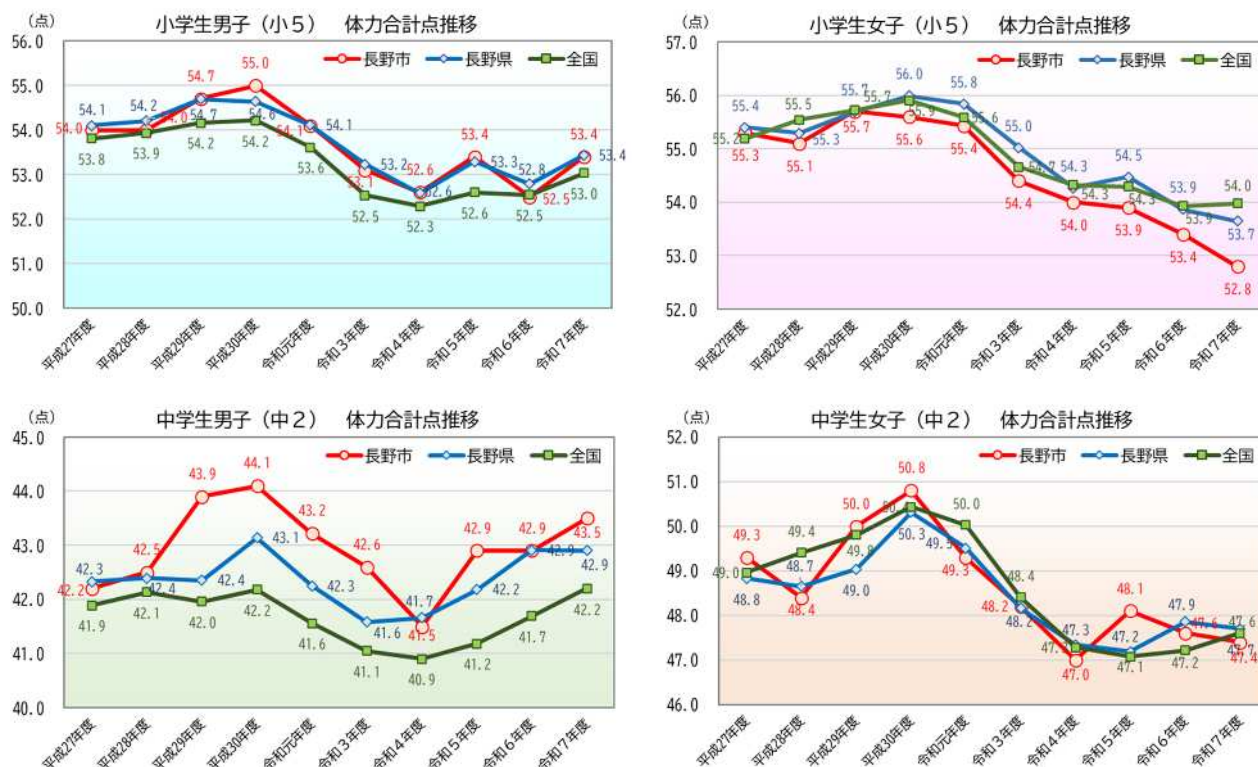
出典：住民基本台帳

## 2 子どもの体力や部活動の状況

### (1) 国・県と比較した子どもの運動能力

小学生女子の体力合計点が例年国・県を下回っており、近年その傾向が加速しています。中学生男子は全国・県を上回る点数となっています(図表 9)。

図表 9 国・県と比較した本市小中学生の体力合計点の推移

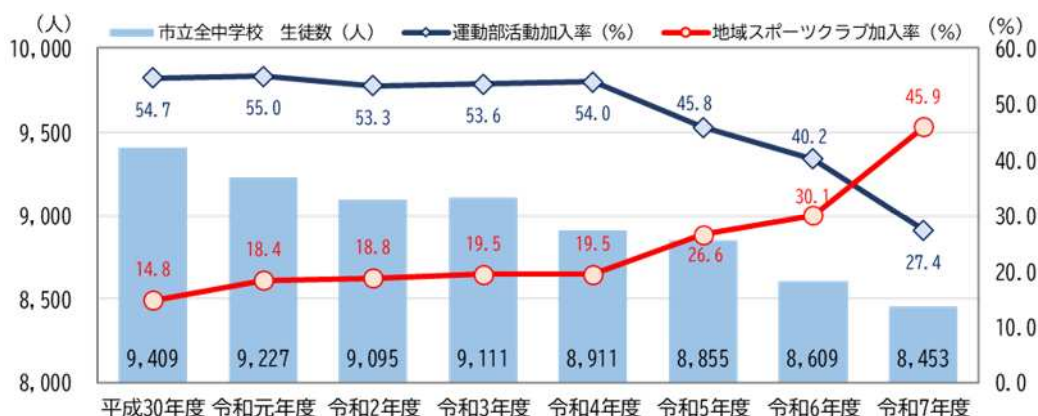


出典: 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書

### (2) 運動部活動とスポーツクラブの加入状況

部活動の地域展開が始まった令和5年度以降、運動部活動加入率が低下する一方、地域スポーツクラブへの加入率が大きく上昇しており、部活動の地域展開が進んでいることが伺えます(図表 10)。

図表 10 長野市内中学校の生徒数と運動部活動加入率・地域スポーツクラブ加入率



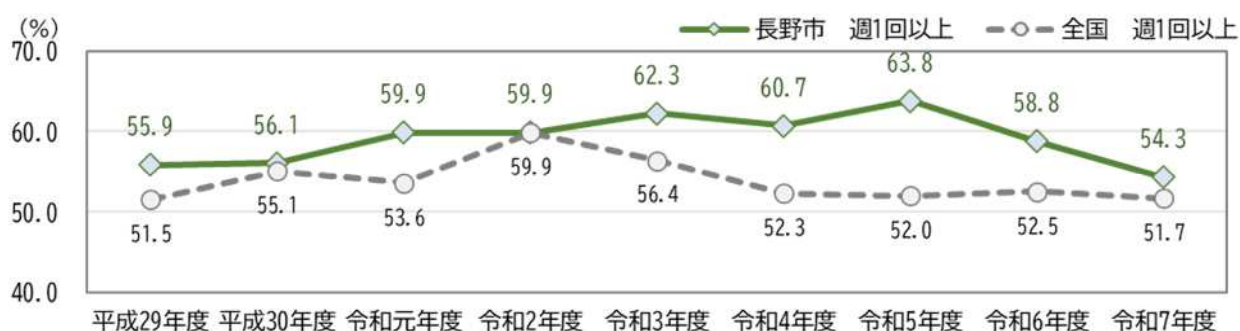
出典: 長野市スポーツ課

### 3 成人のスポーツ実施の状況

#### (1) スポーツ実施率

運動・スポーツを定期的実施する市民(成人)の割合は、全国平均を上回って推移していますが、近年低下傾向にあり、その差が縮小しています(図表 11)。

図表 11 スポーツ活動を行っている成人の割合の推移(週1回以上)



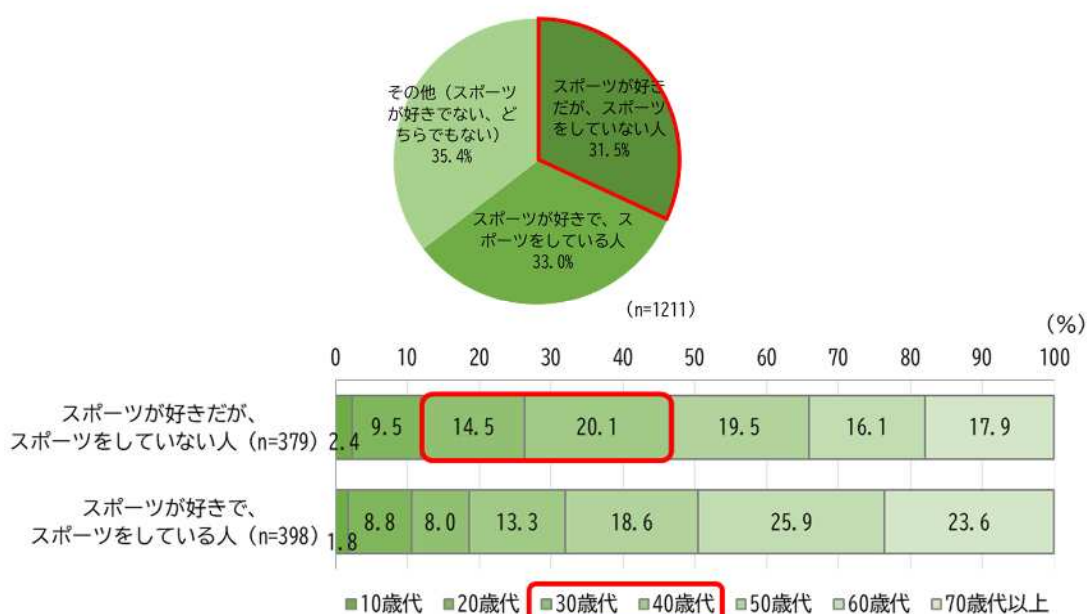
出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

#### (2) スポーツ実施潜在層

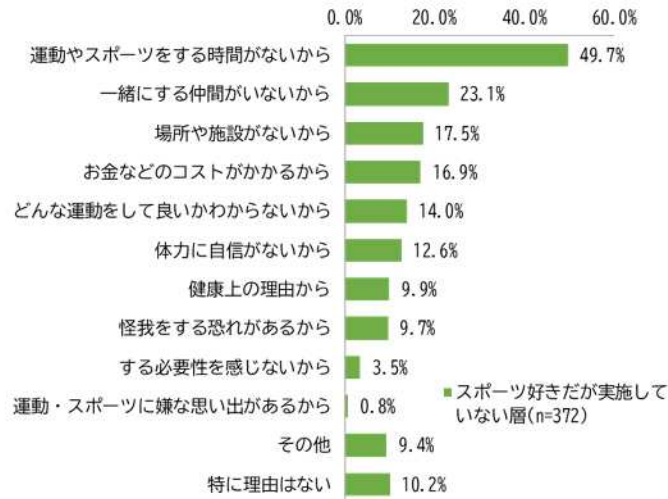
運動・スポーツの関心度別にスポーツ習慣の有無を分析したところ、「スポーツが好きだが、スポーツをしていない人」(以下、スポーツ実施潜在層)が約3割存在しており、30～40 歳代でその割合が高くなっています(図表 12)。また、スポーツをしていない理由として、「運動やスポーツをする時間がないから」を挙げる割合が特に高くなっています(図表 13)。

図表 12 スポーツが好きだが、スポーツをしていない層の割合と年代分布



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

図表 13 スポーツ実施潜在層がスポーツをしていない理由(複数回答)



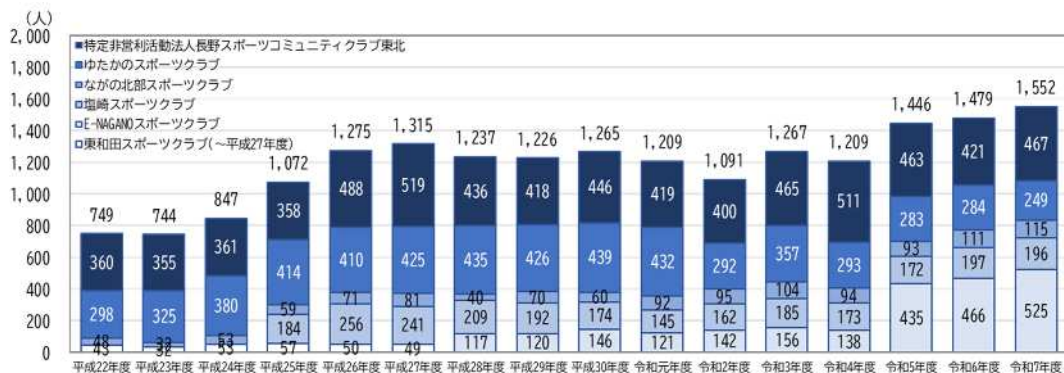
出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## 4 「支える」スポーツや障害者スポーツの状況

### (1) 総合型地域スポーツクラブへの参加状況

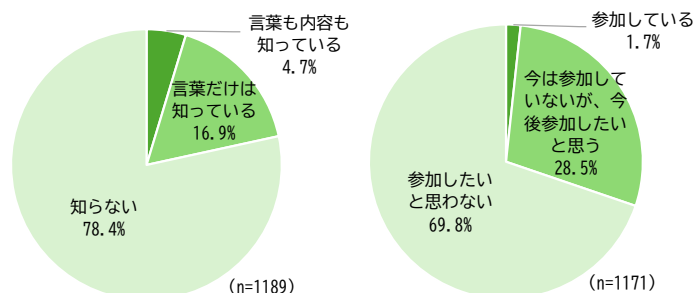
総合型地域スポーツクラブは本計画策定時点で6団体あり、会員数の合計はこの3年間で増加傾向にあります(図表 14)。一方、総合型地域スポーツクラブに対する市民の認知度は 21.6%と低く、今後の参加意向についても 28.5%にとどまっています(図表 15)。

図表 14 総合型地域スポーツクラブ会員数の推移



出典:長野市スポーツ課

図表 15 総合型地域スポーツクラブ認知度と今後の参加意向度

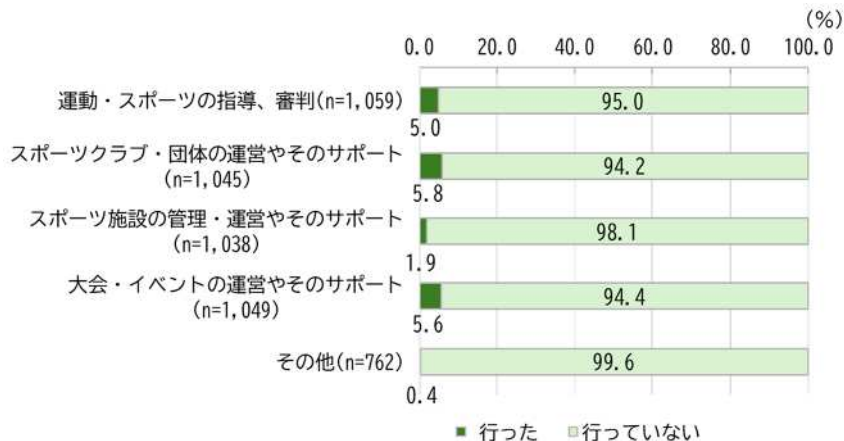


出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## (2) ボランティア活動の経験

指導者や審判、クラブの運営サポート等、運動・スポーツに関するボランティア活動の経験割合は、いずれも1割未満と非常に低い数字となっています(図表 16)。

図表 16 この1年間の運動・スポーツに関するボランティア活動の実施経験



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## (3) 障害者スポーツへの市民の関与

10歳代では「障害者スポーツを体験したことがある」が34.6%ですが、その他の年代では、体験をはじめ障害者スポーツに関わったことがない人がほとんどを占めています(図表 17)。障害者スポーツへの関心を高めるため、「NAGANO スポーツ・パラスポーツフェスティバル」といったイベントの他、誰もが障害者スポーツに触れる機会を継続的に提供していくことが必要となります。

図表 17 年代別 障害者スポーツに関わった経験(複数回答)

|                | 障害者スポーツを行ったことがある | 障害者スポーツを体験したことがある | 障害者スポーツを観戦したことがある | 障害者スポーツを支える活動を行ったことがある | 関わったことはない |
|----------------|------------------|-------------------|-------------------|------------------------|-----------|
| 10歳代 (n=26)    | 3.8              | 34.6              | 7.7               | 0.0                    | 61.5      |
| 20歳代 (n=92)    | 7.6              | 10.9              | 7.6               | 4.3                    | 72.8      |
| 30歳代 (n=127)   | 1.6              | 8.7               | 7.9               | 4.7                    | 86.6      |
| 40歳代 (n=197)   | 4.1              | 4.6               | 6.1               | 4.6                    | 85.3      |
| 50歳代 (n=235)   | 1.3              | 4.3               | 5.1               | 3.8                    | 87.7      |
| 60歳代 (n=255)   | 1.6              | 2.7               | 9.0               | 4.7                    | 84.7      |
| 70歳代以上 (n=258) | 0.8              | 2.3               | 5.4               | 3.5                    | 90.7      |

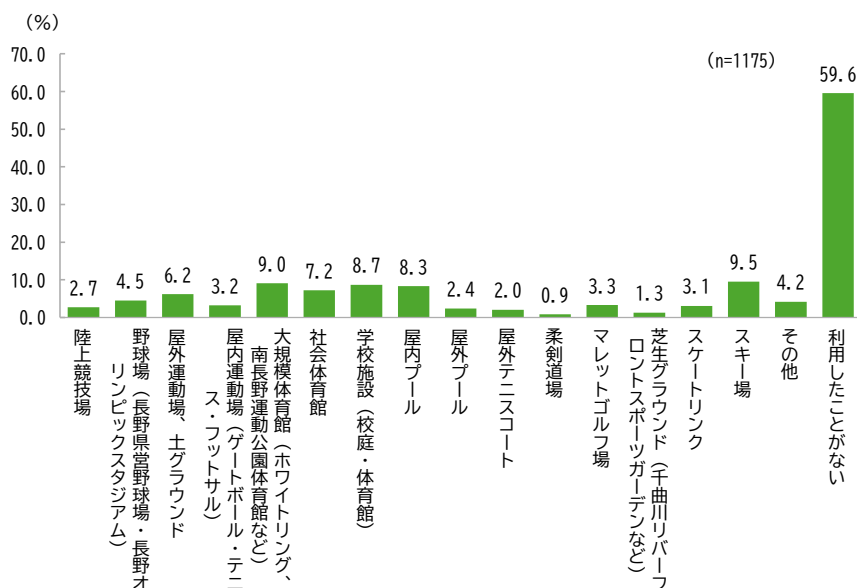
出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## 5 スポーツ施設の現状と課題

### (1) 公共スポーツ施設の利用状況

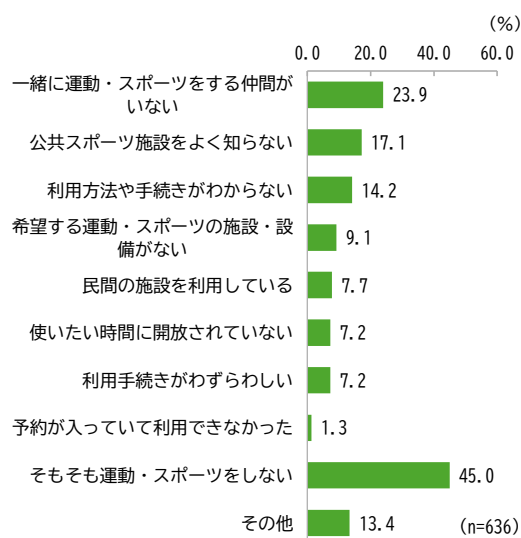
運動・スポーツをするために公共スポーツ施設を「利用したことがない」という回答は約6割となっており(図表 18)。その理由として、「そもそも運動・スポーツをしない」を除くと、「一緒に運動・スポーツする仲間がいない」という回答が最も多く見られます(図表 19)。

図表 18 この1年間で運動・スポーツを行うために利用した公共スポーツ施設(複数回答)



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

図表 19 公共スポーツ施設を利用しない理由(複数回答)



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## (2) 社会体育館の利用状況と維持に対する考え方

市内公共スポーツ施設の中でも、各地区に設置されている身近な施設として「社会体育館」があります。社会体育館の利用率は17.3%、運動・スポーツをしている子どもがいる場合は62.6%と高い数字となっています(図表 20)。老朽化に対する施設維持については様々な意見が挙がっており(図表 21)、費用面などを考慮しながら、多くの人が快適かつ安全に使える施設運営を目指す必要があります。

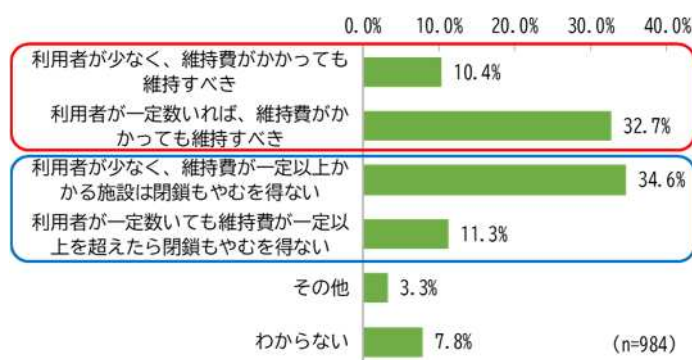
図表 20 社会体育館の利用率



※子どもの利用率は、小学生以上の運動・スポーツをしている子どものいる対象者のみ

出典:長野市「スポーツ施設に関する市民アンケート(2026)」

図表 21 社会体育館の維持についての考え方



出典:長野市「スポーツ施設に関する市民アンケート(2026)」

### (3) 大型スポーツ施設の現状・課題

長野市が行った大型スポーツ施設等に関する調査研究から、以下の現状・課題が明らかになっています(図表 22)。

図表 22 大型スポーツ施設の現状と課題、今後の対応の考え方

|                         | 現状・課題と今後の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設の老朽化と大規模改修費           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリンピック関連施設は建設から 25 年以上が経過し、一斉に大規模修繕の時期を迎えており、長寿命化・改修費用が市財政への負担となっている</li> <li>➢ 単なる修繕ではなく、施設の高機能化への戦略的投資が必要</li> <li>➢ 国スポ・全障スポ開催などの節目に合わせ、段階的・計画的な改修が必要</li> <li>➢ 経済的、社会的価値の点から、改修投資の判断や施設コンセプトの再構築が必要</li> </ul>                                   |
| 高コストと指定管理料(公費)への依存      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 近年のエネルギー価格高騰に伴い、光熱水費や維持管理費が上昇</li> <li>● 施設の自主事業収入や看板広告等の附帯収入に限られ、施設維持は市の「指定管理料」に大きく依存している構造</li> <li>➢ 省エネ設備の導入や基本契約の見直しなどランニングコスト削減が必要</li> <li>➢ ネーミングライツ導入や多様なコンテンツ誘致により、収入を増やすことが必要</li> <li>➢ 稼働率、広告収入などの成果指標(KPI)に基づき、評価・検証を行うことが必要</li> </ul> |
| 五輪イメージへの偏り              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民意識調査の結果から、大規模施設に対しては「長野オリンピック会場」という認識が非常に強く、「プロスポーツやエンターテインメントの拠点」として十分に認識されるには至っていない</li> <li>➢ プロスポーツ以外の多目的アリーナとしての魅力を広く発信することが必要</li> </ul>                                                                                                      |
| アイススポーツの通年での競技環境        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通年利用できる氷上リンクがなく、市内競技者の県外流出や広域からの合宿・大会誘致の機会損失を生んでいる</li> <li>➢ 通年リンクの実現可能性を検証しながら、既存施設の運用を見直すことが必要(市民利用を平日にし、土日大型大会を誘致する、など)</li> </ul>                                                                                                                |
| デジタル環境(DX)の遅れと顧客データの未活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設内の高速 Wi-Fi やデジタル演出設備が未整備であり、最新のアリーナ基準やスマート観戦ニーズに対応できていない</li> <li>● 個人 ID 連携や Web 予約等の顧客管理基盤がなく、来場者データの収集・分析やマーケティングへの活用ができていない</li> <li>➢ 最新のリーグ基準や観戦ニーズに対応し、スマートアリーナ化を進めることが必要</li> <li>➢ データ分析・活用によるマーケティング強化と収益機会(飲食・物販等)拡大が必要</li> </ul>       |

出典:長野市「スポーツを基幹産業としたまちづくり検討調査」  
「大規模スポーツ施設等適正評価業務報告書」  
「令和 6 年度 スタジアム・アリーナ改革推進事業報告書」  
「長野市におけるアイススポーツ基本構想」

## 6 地域密着型プロスポーツチーム等による地域への影響

### (1) 地域密着型プロスポーツチームの観客動員数と経済波及効果

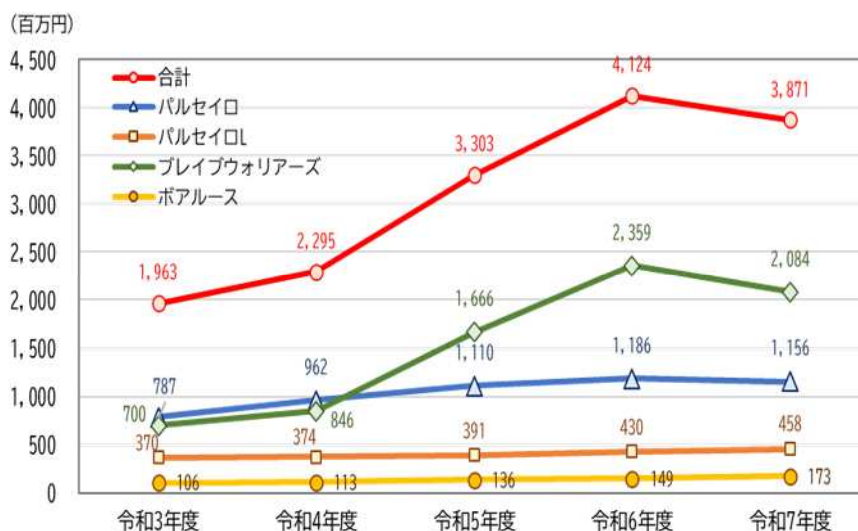
ホームゲームの観客動員数は増加傾向でしたが、令和7年度は横ばいとなっています(図表 23)。また、チームの活動によりもたらされる経済波及効果も同様に増加傾向でしたが、令和7年度には減少しています(図表 24)。

図表 23 ホームゲーム入場者数



出典:長野市スポーツ課

図表 24 プロスポーツチームが市内にあることによる経済波及効果



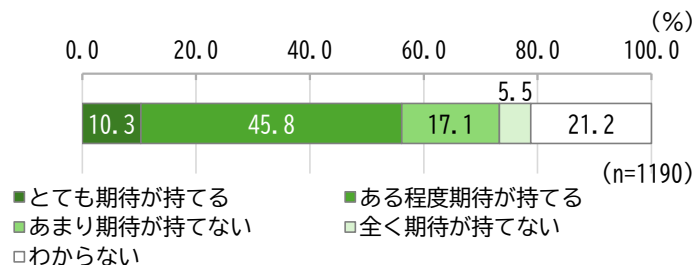
※年度ごとの算出数値であり、一シーズンの合計値とは必ずしも一致しない。

出典:長野市スポーツ課

## (1) 地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域づくりへの期待

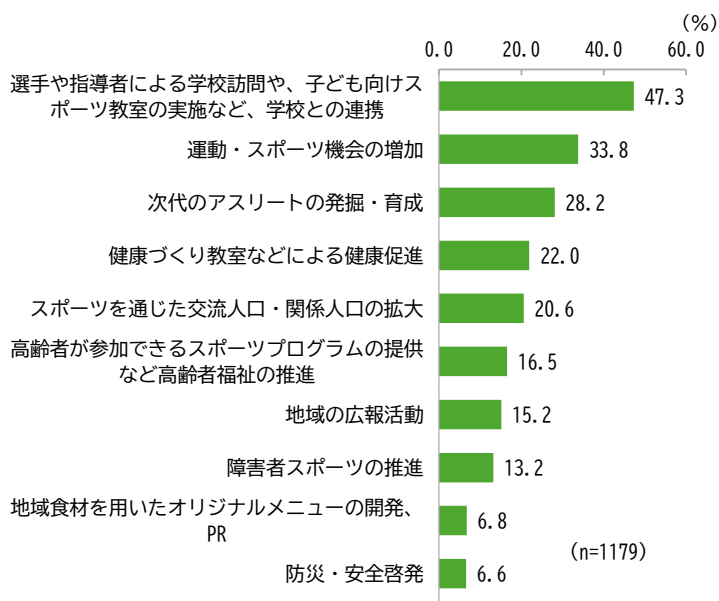
地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域づくりに対し、「期待が持てる」との回答が過半数となっています(図表 25)。特に学校との連携など、子どものスポーツへの関わりに期待する声が大きくなっています(図表 26)。

図表 25 地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域づくりへの期待度



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

図表 26 地域密着型プロスポーツチームに期待すること



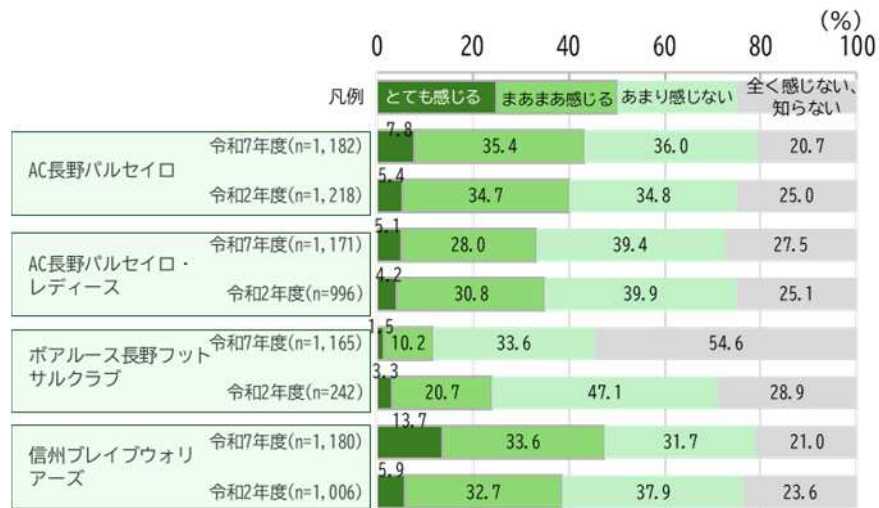
出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## (2) プロスポーツチームへの愛着と観戦による意識・行動への影響

市内に4つある地域密着型プロスポーツチームに対し、愛着を「とても感じる」という人の割合は、前回調査より概ね高まっています(図表 27)。

また、スポーツ観戦をすることは、そのスポーツをより多く観戦したり、他のスポーツも観戦したりするようになるなど、「観る」スポーツを促進する効果が強く見られます(図表 28)。しかし、スポーツ観戦をきっかけに「する」スポーツや「支える」スポーツに影響を及ぼすまでには至っていません。

図表 27 プロスポーツチームへの愛着度



出典：長野市「スポーツに関する市民アンケート(2020,2026)」

図表 28 スポーツを観戦することによる意識・行動の変化(複数回答)



出典：長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## 7 スポーツコンベンションの現状と課題

本市が行った各種調査研究(図表 29)から、大会誘致・スポーツコンベンション(合宿等)に関して、以下の現状・課題を整理します。

図表 29 大会誘致・スポーツコンベンションにおける現状と課題、今後の対応の考え方

|                        | 現状・課題と今後の考え方                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 既存大会の一過性               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリンピックレガシーである大規模スポーツ施設を活かし、全日本スピードスケート選手権や全国中学校スケート大会等の国際・全国大会をコンスタントに誘致・開催している</li> <li>● 一過性の高い単発のイベントが多く、新規イベントの開発や継続的な波及効果が課題となっている</li> <li>➢ 新規イベントの創出や、その効果を持続・拡大させる効率的な推進体制が必要</li> </ul> |
| 誘客・プロモーションの不足          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツイベントやコンベンションの参加者を、市街地や周辺への観光・飲食・宿泊につなげる流れが不足している</li> <li>➢ ステークホルダーと連携しながら、ストーリー性を持って経済効果を波及させるための推進体制を構築することが必要</li> </ul>                                                                  |
| 合宿の誘致ポテンシャルと「受け皿」の機会損失 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 飯綱高原や南長野エリアの特性を活かし、プロサッカーチームや大学、アマチュアチームの合宿を戦略的に誘致するプロジェクトが始動し、ニーズ(市場規模)も大きい</li> <li>➢ 合宿を地域への滞在、周遊に結びつけるための交通動線や周辺施設とのパッケージ化が必要</li> </ul>                                                      |
| 通年競技環境の不足と機会の損失        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通年利用できる氷上リンクがなく、市内競技者の県外流出や広域からの合宿・大会誘致に対する機会損失が発生している</li> <li>➢ 通年での合宿・大会誘致ができるよう通年リンク化の検証を進めることが必要</li> </ul>                                                                                  |

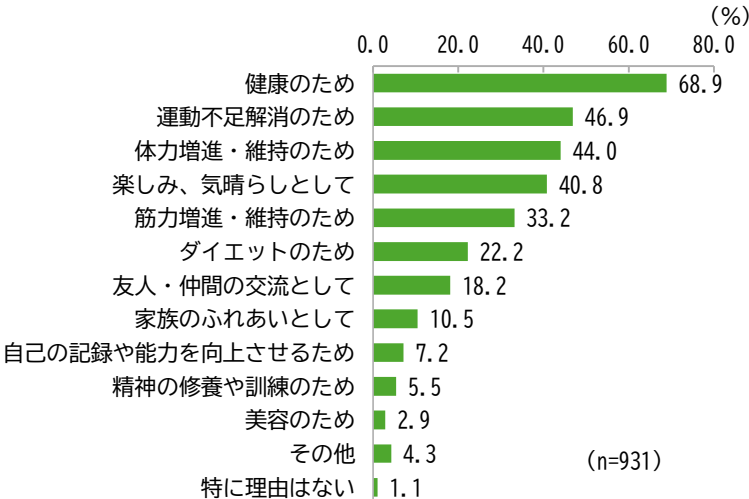
出典：長野市『長野市スポーツによるまちづくり推進事業報告書』

## 8 市民がスポーツに求めるもの

### (1) スポーツに取り組む理由

スポーツに取り組む理由として、健康増進に関する項目が上位に挙がっており、スポーツによる健康づくりは多くの市民が求めている第一の目的と言えます。その他に、楽しみ・気晴らし、仲間との交流、家族のふれあいといった、生きがいに関わる理由も挙げられています(図表 30)。

図表 30 スポーツに取り組む理由(複数回答)



出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

### (2) スポーツ振興に期待する効果

年代によって、本市のスポーツ振興に期待する効果に違いが見られます。子育て世代の30～40歳代では、「親子や家族の交流」に期待する人が多く、高齢層では、「健康づくりや成人病予防」や「高齢者の生きがいづくり」を挙げる人が多くなっています(図表 31)。

図表 31 スポーツ振興に期待する効果(複数回答)

|                | 親子や家族の交流 | 余暇時間の有効活用 | 世代間交流の促進 | 子どもの体力づくり | 青少年の健全育成 | 高齢者の生きがいづくり | 健康づくりや成人病予防 | 経済の活性化 | 交流人口の増加 | スポーツ施設の有効利用 | 地域の健康水準の向上 | 地域のコミュニティの形成・活性化 | オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進 | その他 | 効果はない |
|----------------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-------------|-------------|--------|---------|-------------|------------|------------------|-------------------------|-----|-------|
| 10歳代 (n=26)    | 19.2     | 34.6      | 23.1     | 30.8      | 34.6     | 23.1        | 30.8        | 30.8   | 30.8    | 38.5        | 23.1       | 34.6             | 7.7                     | 3.8 | 7.7   |
| 20歳代 (n=90)    | 36.7     | 38.9      | 15.6     | 33.3      | 20.0     | 24.4        | 36.7        | 8.9    | 11.1    | 25.6        | 16.7       | 17.8             | 4.4                     | 1.1 | 13.3  |
| 30歳代 (n=124)   | 46.8     | 41.9      | 19.4     | 55.6      | 28.2     | 25.0        | 39.5        | 12.9   | 10.5    | 36.3        | 17.7       | 16.9             | 4.8                     | 0.8 | 4.8   |
| 40歳代 (n=196)   | 48.5     | 35.7      | 19.4     | 49.0      | 26.5     | 25.5        | 37.8        | 11.7   | 9.7     | 27.0        | 17.9       | 16.3             | 4.1                     | 0.5 | 9.7   |
| 50歳代 (n=231)   | 31.2     | 36.8      | 25.5     | 37.7      | 31.6     | 39.4        | 49.8        | 16.5   | 11.3    | 38.1        | 22.9       | 26.4             | 8.2                     | 2.2 | 5.6   |
| 60歳代 (n=244)   | 19.3     | 39.3      | 23.0     | 29.5      | 27.0     | 57.8        | 59.0        | 9.4    | 7.0     | 28.7        | 25.0       | 19.7             | 7.0                     | 1.2 | 2.5   |
| 70歳代以上 (n=246) | 17.5     | 39.0      | 29.3     | 26.8      | 25.2     | 63.4        | 60.2        | 8.9    | 14.6    | 27.6        | 28.9       | 23.2             | 4.9                     | 0.8 | 3.3   |

出典:長野市「スポーツに関する市民アンケート(2026)」

## 第5章 長野市スポーツの強み・課題と方向性

### 1 SWOT 分析による長野市スポーツ事業の現状の整理

第2章～第4章の内容を踏まえ、本市のスポーツ事業における強みと課題を SWOT 分析の手法で整理します(図表 32)。

図表 32 長野市のスポーツ事業に関する SWOT 分析

|                       | 【プラス要因】(目標達成に貢献するもの)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 【マイナス要因】(目標達成の障害となるもの)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | 【S】強み (Strengths)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 【W】弱み (Weaknesses)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 【内部環境】<br>(長野市の特性・経緯) | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1. 高いスポーツ実施率と身近な施設・競技基盤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国より高いスポーツ実施率(近年は減少傾向)</li> <li>・各地域の社会体育館(子ども世代の高い利用率)</li> <li>・スポーツ競技団体等の登録者数の増加</li> </ul> </li> <li>-2. オリンピック・パラリンピック等のレガシー <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な大規模スポーツ施設</li> <li>・「スポーツを軸としたまちづくり」の行政・市民基盤</li> </ul> </li> <li>-3. 4つの地域密着型プロスポーツチームの存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームとの連携による地域づくり</li> <li>・市民の愛着や誇り(シビックプライド)の醸成</li> </ul> </li> <li>-4. 誘致に適した豊かな自然・環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候・自然・アクセスの良さ(ツーリズム・合宿適地)</li> </ul> </li> <li>-5. スポーツ医科学・予防医療の知見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学等と連携した医科学知見・ヘルスケア展開</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1. スポーツ実施率・参画の伸び悩み <ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙な子育て世代など、スポーツをしたくてもできない潜在層の存在</li> <li>・「観る」から「する・支える」への行動変容</li> <li>・障害者スポーツへの参画率、関心度の低さ</li> </ul> </li> <li>-2. 地域におけるスポーツの受け皿、地域格差 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブの認知度、参加意向の高さ</li> <li>・スポーツ習慣に対する地域格差</li> </ul> </li> <li>-3. 施設の維持管理や活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設老朽化に伴う維持修繕費</li> <li>・「稼ぐ力」の不足と指定管理料(公費)への依存</li> <li>・大規模スポーツ施設の競技会場としての活用の偏り</li> <li>・アイススポーツ競技の通年実施</li> </ul> </li> <li>-4. 市内スポーツ施設のデジタル化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web 予約機能、デジタル基盤の導入状況</li> </ul> </li> </ul> |
|                       | 【O】機会 (Opportunities)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 【T】脅威 (Threats)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 【外部環境】<br>(国や社会の動向)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1. 国策と社会的ニーズ <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康促進に加え、ウェルビーイング、社会課題解決</li> <li>・超高齢化に伴うフレイル予防のニーズ増大</li> </ul> </li> <li>-2. スポーツの安全性・健全性の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止、コンプライアンス遵守、ガバナンス強化に対する社会的要請</li> </ul> </li> <li>-3. 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスポーツ施策の発展、施設の整備</li> </ul> </li> <li>-4. アリーナ高機能化・スポーツコンプレックス形成の機運 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロリーグ改革に伴うアリーナの高機能化、交流拠点化(スポーツコンプレックス)による賑わい創出</li> </ul> </li> <li>-5. 公共施設への民間活力(官民連携)導入の波 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFI・ネーミングライツ等、施設運営の多様化の波</li> </ul> </li> <li>-6. デジタル技術(DX)の進化による新たな体験・利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート施設運営</li> <li>・新しい観戦・体験スタイルの拡大(スマートアリーナやデジタルによる没入感演出など)</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1. 人口減少と地域コミュニティの希薄化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ人口(実施・観戦・利用)の絶対数の縮小</li> <li>・個人主義やデジタル化の進行に伴う孤立・孤独の増加</li> </ul> </li> <li>-2. 気候変動リスクによる屋外・冬季スポーツ環境の悪化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑・熱中症リスクの上昇</li> <li>・雪不足等による屋外・冬季イベントへの影響</li> </ul> </li> <li>-3. 部活動地域展開に伴う受け皿・指導者不足 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者・受入クラブ・財源の不足</li> <li>・地域ごとの教育・体験機会格差の懸念</li> </ul> </li> <li>-4. 物価高騰による施設維持コストの増大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・物価・エネルギー高騰による維持管理費の増加</li> </ul> </li> </ul>                                                                                   |

## 2 クロス SWOT 分析による戦略の抽出

SWOT 分析で整理した内部環境と外部環境の要素を掛け合わせ、今後の本市のスポーツ振興に対する戦略を整理します(図表 33)。

図表 33 クロス SWOT 分析による戦略

|                 | 戦略内容                                                                                                        | 方向性<br>との関連 |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 積極戦略<br>強み×機会   | 官民連携(PFI 等)の手法を活用して <b>大規模スポーツ施設</b> の施設価値を高め、「 <b>観る」「集まる」</b> 賑わいの拠点として再構築する                              | B-1         |
|                 | <b>4つのプロスポーツチーム</b> があることの強みを活かすとともに、プロリーグ改革による <b>アリーナ高機能化</b> 等の機運に乗り、 <b>アリーナ等を核としたスポーツコンプレックス</b> を形成する | B-1<br>B-2  |
|                 | <b>恵まれた気候・自然・アクセス</b> を活かすとともに、 <b>国スポ・全障スポ開催による機運</b> とインフラ整備のタイミングに合わせ、 <b>合宿・大会誘致の拡大</b> につなげる           | B-1         |
|                 | 大学の <b>スポーツ医科学・予防医療の知見</b> を活かし、 <b>フレイル予防とウェルビーイング向上</b> を実現する                                             | A-2         |
| 改善戦略<br>弱み×機会   | スポーツ実施率の伸び悩みと潜在層の存在に対し、健康増進だけでなく <b>多様な動機(つながり・楽しみ・生きがい)</b> を入口に、 <b>無関心層・多忙層を掘り起こす</b>                    | A-1<br>A-2  |
|                 | <b>部活動の地域展開を機に</b> 総合型地域スポーツクラブの利用・認知を高め、 <b>地域でスポーツを支える基盤を構築</b> する                                        | A-1         |
|                 | 市内スポーツ施設のデジタル化を推進し、 <b>利便性と稼ぐ力</b> の双方を高める                                                                  | B-1<br>C    |
| 防衛戦略<br>強み×脅威   | 人口減少と孤立・孤独の増加に対し、プロスポーツチームとボランティア文化という「 <b>人が集まる力</b> 」を活かし、 <b>地域コミュニティを再生</b> する                          | A-2<br>B-2  |
| 最悪回避戦略<br>弱み×脅威 | <b>施設の適正配置・適切な利用料徴収・民間活力導入</b> などにより、物価高騰を乗り越え、 <b>施設を次世代へ継承</b> する                                         | C           |

## 3 本計画で取り組むべき方向性

1,2 で整理した本市のスポーツ振興に関する課題、戦略を踏まえ、本計画にて取り組むべき方向性を下記のように定めます。本市の持つ優位性によりスポーツの価値をより高めながら、事業に取り組みます。

### A スポーツの価値を活かす

- 1:だれもがスポーツを楽しみ、スポーツを通じて人生の充実感や豊かさを実現する
  - ー機会格差の解消／部活動の地域展開の受け皿整備／障害者のスポーツ参加促進
- 2:スポーツの持つ多面的な価値を活用して、地域の問題を解決し、地域の活性化を図る
  - ー健康寿命のさらなる延伸／希薄化しているコミュニティの再生／多様な人が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いを理解・尊重しながら共生する社会の実現／地域経済の活性化

## B 長野市の優位性を活かす

- 1:有形・無形のオリンピックレガシーの価値・魅力を磨き、稼ぐ力や集客力を高める
  - ー大規模スポーツ施設のアップデート／アリーナ等を核としたスポーツコンプレックスの形成
- 2:プロスポーツチームとの連携を強化し、あらゆるスポーツの場面で効果を高める
  - ー「する」「観る」「支える」「集まる・つながる」場面でのプロスポーツ連携／地域密着

## C 持続可能な基盤を固める

市民の共有財産であるスポーツ施設を適切に維持・更新し、利便性や価値を高めながら次世代に引き継いでいく

- ー施設の適正配置と長寿命化／民間活力の活用／防災拠点等としての活用／デジタル化による利便性の向上／公平で納得感のある負担の仕組み

### A スポーツの価値を活かす

- 1 一人ひとりがスポーツの楽しさを享受できること
- 2 スポーツによって地域に活力が生まれること

### B 長野市の優位性を活かす【本市スポーツ推進の基盤】

- 1 オリンピックレガシーのアップデート
- 2 地域密着型プロスポーツチームとの連携強化

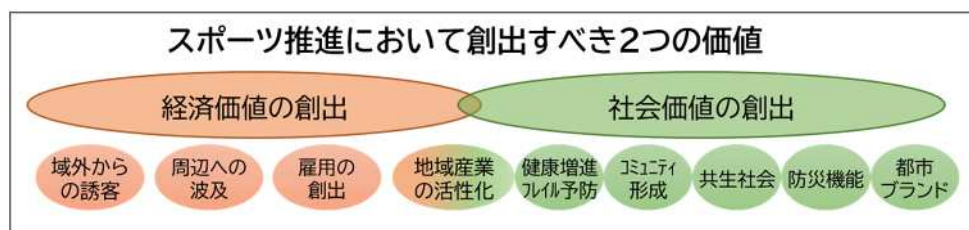
### C 持続可能な基盤を固める

適正な維持管理体制の構築、防災拠点等としての活用、民間活力の活用、スマート化による利便性向上

## 4 スポーツ推進により創出すべき価値

3の方向性に基づきスポーツを推進することにより、①経済価値(持続可能な運営基盤)と②社会価値(地域・市民への還元)の両方を創出します(図表 34)。

図表 34 スポーツ推進により創出すべき価値



出典:長野市『スポーツを基幹産業としたまちづくり検討調査報告書』より独自作成

### 【本計画で実現したいこと】

- 本市の持つスポーツ資源を継承し、発展させながら、スポーツ振興だけでなく、スポーツの持つ多面的な価値によって、地域経済の発展や地域課題を解決に導き、地域の活性化につなげる。また、そのことを通じて市民のウェルビーイングを向上させること。

## 第6章 本計画における基本構想

### 1 本計画における基本理念と目指す姿

本計画が目指すのは、全ての市民が、年齢や障害の有無等にかかわらず、それぞれのライフステージやライフスタイルに合わせて、「する」「観る」「支える」「集まる」「つながる」など多様な形で、日常的にスポーツに親しむことができるまちです。

スポーツを健康・教育・福祉・観光・経済など幅広い分野と結びつけ、日々の運動・スポーツや仲間との交流を通じて心身の健康を育み、生きがいや喜び、日々の暮らしの充足感(ウェルビーイング)を実感できるまちを目指します。また、本市が持つかけがえのないスポーツ資源を最大限に生かしてまちに賑わいと活力を創出します。

#### (1) 基本理念

スポーツを軸としたまちづくり

#### (2) 目指す姿

スポーツを通してまちに活力が生まれている  
～スポーツの力で人と地域を元気にする～

### 2 本計画の基本目標

基本理念のもと、本計画が目指す姿を実現するため、第5章にてまとめた方向性に基づき、「5つの基本目標」を設定し、施策を総合的かつ体系的に推進します。

#### **基本目標1** スポーツをしたい人があきらめない環境の実現

スポーツは本来、誰もが等しく享受すべき権利であり、ウェルビーイングをもたらす源泉です。しかし本市では、成人のスポーツ実施率の低下傾向、子育て世代・働く世代(30～40歳代)のスポーツ離れ、小学生女子の体力低下、部活動の地域展開に伴う教育・機会格差の懸念、障害者スポーツへの関心の低さなど、様々な要因でスポーツから遠ざかり、参加をあきらめざるを得ない状況も存在しています。

この基本目標では、年齢、性別、障害の有無、家庭環境等にかかわらず、すべての市民がそれぞれのライフステージや体力、興味に応じて「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツに親しみ、あきらめずに継続できるインクルーシブで安全・安心な環境づくりを目指します。

## <施策の柱>

### 1 ライフステージに応じたスポーツ機会の創出

- ・ 市民一人ひとりの体力や年齢、ライフスタイルに応じてスポーツに親しめるよう、年代に応じたシームレスな支援を行います。特に、スポーツに関心がありながら時間的制約等で実施できていない層(子育て世代、働く世代、女性等)を重点ターゲットとし、隙間時間や身近な場所で気軽に参加できるプログラムの提供や、施設の無料開放、わかりやすい情報発信などを通じて、幅広いスポーツ実施のきっかけづくりと習慣化を促します。

### 2 地域における身近なスポーツ活動の推進

- ・ 総合型地域スポーツクラブへの支援や公民館等でのスポーツ活動の促進、スポーツ推進委員のコーディネート機能の向上を図り、市民が居住エリアに近い身近な地域で自主的・自発的にスポーツに親しめる活動基盤を強化します。

### 3 部活動の地域展開

- ・ 部活動の地域展開を着実に推進するとともに、家庭の経済的・地理的事情等によって参加を断念せざるを得ない子どもたちが生まれないよう、教育委員会や学校と緊密に連携し、きめ細かな参画支援と多様な受け皿の確保に取り組みます。

### 4 競技スポーツの普及と競技力の向上

- ・ 長野オリンピック・パラリンピックの有形・無形のレガシーを活かし、スケート等の冬季種目をはじめとする各種競技スポーツの普及を進めます。
- ・ 長野市スポーツ協会や競技団体と連携し、ジュニア世代の発掘・育成や指導者の資質向上など、競技力向上の好循環をつくります。

### 5 障害者スポーツの普及とインクルーシブ環境の整備

- ・ 障害の有無にかかわらず誰もが一緒にスポーツを楽しめるよう、「NAGANO スポーツ・パラスポーツフェスティバル」等の体験機会の充実や施設のバリアフリー化を推進します。
- ・ 2028年の「全国障害者スポーツ大会」開催の機運に合わせて、障害者のスポーツ参画をさらに充実させるとともに、スポーツを通じた相互理解と「心のバリアフリー」を市全体に広げ、共生社会の実現を目指します。

## **基本目標2** スポーツの多様な価値を活かした地域活性化の推進

スポーツは、体を動かす楽しさに加えて、健康を守り、人と人をつなぎ、多様な人がともに過ごす場をつくる力を持っています。この基本目標では、スポーツの持つ力を活用しながら、本市の地域課題(健康寿命の延伸、地域のつながりの希薄化、共生社会の実現など)に取り組み、地域の活力とつながりの創出、市民一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指します。

## <施策の柱>

### 1 スポーツを通じた健康づくり

- ・ スポーツを通じて、子どもから高齢者まであらゆる世代の健康増進、特に高齢者のフレイル予防や健康寿命の延伸に取り組みます。実施にあたっては、本市の健康部門・介護部門の施策と一体的に取り組むとともに、大学等の研究機関との連携を推進します。

## 2 スポーツを通じた「居場所」と「つながり」の創出

- ・ 「一緒に運動する仲間がいない」ことが、市民が公共スポーツ施設を利用しない最も大きな理由となっている現状を踏まえ、一人でも参加でき、そこで仲間ができる場づくりを進めます。
- ・ プロスポーツチーム、地域企業、総合型地域スポーツクラブ、住民自治協議会等と連携し、スポーツをきっかけとした多世代の交流を広げることで、孤立・孤独の防止と地域コミュニティの活性化につなげます。
- ・ 年齢、性別、障害の有無、国籍などの違いを越えて、同じ場でスポーツを楽しむ機会を広げ、お互いを認め合う関係づくりを進めます。2028年の「信州やまなみ国スポ・全障スポ」は、この動きを市全体に広げる好機として活用します。
- ・ スポーツがもたらす健康や交流の効果を継続的に把握し、健康・福祉・教育・地域づくりの各分野と共有することで、スポーツを本市の課題解決の共通の手段として位置づけ、市民に分かりやすい形での「見える化」を図ります。

### **基本目標3** スポーツによる賑わいづくりと地域経済の活性化

本市は、1998年の長野オリンピック・パラリンピックの開催を契機に得た有形・無形の財産、冷涼な気候や豊かな自然環境、善光寺をはじめとする歴史文化など、多くの地域資源を有しています。しかし、既存大会やイベントの一過性、周辺観光地や市街地への波及不足、通年で利用できる氷上競技環境の不足による機会損失など、スポーツを地域経済の活性化や産業創発に十分結びつけられていない現状があります。

この基本目標では、スポーツを福祉や教育にとどまらず、「まちづくり・地域経済を牽引する成長エンジン」として位置づけ、本市が持つスポーツ資源と観光・産業資源を戦略的に連動させることで、交流人口・関係人口の拡大と域内消費の創出を図ります。

#### <施策の柱>

#### 1 大規模大会及びスポーツ合宿の誘致促進

- ・ エムウェーブやビッグハット等を有効に活用し、トップレベルの国際大会や全国大会、集客型スポーツイベントの戦略的かつ継続的な誘致・開催を図ります。大会開催による交流人口の拡大を進めるとともに、国内外へ本市の魅力を発信します。
- ・ 飯綱高原や南長野エリアをはじめとする恵まれた自然環境や気候、合宿拠点を最大限に活かし、プロスポーツチームや大学・アマチュア等のスポーツ合宿の戦略的な誘致を進めます。
- ・ トレッキングやスノースポーツ等のアウトドアアクティビティを充実させ、広域的な誘客と関係人口の創出を図ります。

#### 2 オリンピックレガシーを活かしたアイススポーツの振興

- ・ エムウェーブ等の施設を核として、スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーなどのアイススポーツの振興と拠点化を推進します。
- ・ 大会誘致や普及育成を強化するとともに、既存施設の運用見直しや通年利用可能な氷上環境の検討により、競技力の向上と交流拡大につなげます。

#### 3 地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進

- ・ 大規模大会の参加者やプロスポーツ観戦のアウェイサポーター等の来訪者を一過性で終わらせず、歴史文化、食、温泉街、商店街などへ誘引・周遊させる仕組みの構築を図ります。

- ・ 観光振興部局や地域事業者等と緊密に連携し、滞在型コンテンツの開発やプロモーションを通じて、宿泊・飲食等への経済波及効果と域内消費の最大化を図ります。

## **基本目標4 持続可能なスポーツ施設マネジメントと利便性の向上**

本市が保有する大規模スポーツ施設や社会体育館は、市民の健康づくりや多様なスポーツ活動を支える貴重な財産です。一方で、物価・エネルギー価格高騰に伴う維持管理費、修繕費の増大や、指定管理料(公費)への高い依存構造、デジタル化など、持続可能な維持・運営に向けた大きな課題に直面しています。

市の公共施設マネジメント指針や個別施設計画に基づき、施設の適正配置と長寿命化改修を着実に進めるとともに、民間活力の導入等による稼ぐ力の向上や利用ルールの適正化、デジタル技術の導入による利便性向上を図り、本市の財政状況に基づき、持続可能で質の高い施設環境の構築を目指します。

### **<施策の柱>**

#### **1 スポーツ施設の適正配置と長寿命化**

- ・ 長野市公共施設個別施設計画に基づき、施設の利用率や老朽度、地域の需要を踏まえた計画的な長寿命化改修や適正配置を推進します。
- ・ 災害時の避難場所や物資拠点としての活用など市民生活の安全・安心を支える機能の確保や、地域の健康・コミュニティを支える多目的な利活用を図るとともに、だれもが安全・快適に使えるよう気候変動に対応した設備整備を推進します。

#### **2 民間活力の活用と持続可能な施設運営**

- ・ 指定管理者制度の運用において、民間のノウハウや創意工夫を最大限に引き出すとともに、稼働率や収支改善、利用者満足度などの成果指標(KPI)を設定した適切なモニタリングを行い、サービスの向上と効率的な管理運営の両立を図ります。
- ・ 各地域で親しまれている社会体育館について、市民や利用者の声を把握しながら、予約ルールの適正化や利用機会の公平性の確保を図ります。
- ・ 施設の適切な維持管理と市民サービスの持続性を両立させるため、適切な受益者負担(有料化等)の仕組みを検討し、誰もが公平かつ快適に利用できる環境整備を図ります。

#### **3 大規模施設等の多目的利用と収支改善**

- ・ 従来の「競技会場」としてのイメージにとどまらず、音楽コンサートや MICE 等の非スポーツコンテンツの誘致・多目的利用を積極的な拡大を図ります。
- ・ ネーミングライツの導入や看板広告の開拓等により自主収入を強化し、指定管理料(公費)に過度に依存しない「稼ぐ力」を持つ施設への転換を図ります。

#### **4 スポーツ DX の推進と利便性向上**

- ・ スポーツ施設予約システムのデジタル化(Web 予約やスマート決済等の導入)を推進し、市民がいつでも手軽に施設を利用できる環境の整備を図ります。
- ・ 施設利用データの分析に基づく利用促進や、観戦・利用環境のスマート化を進め、時代に即した利便性の高いスマートアリーナ・施設運営を推進します。

## **基本目標5 【横断的施策】プロスポーツチームとの連携強化による地域価値の共創**

本市では、4つの地域密着型プロスポーツチームが活動しています。チームは市民に楽しみと誇りをもたらす存在であると同時に、市民が集まり、つながる力を持った地域の強力なパートナーです。

この基本目標では、これまで取り組んできた『ホームタウン NAGANO まちづくり連携推進ビジョン』の考え方を引き継ぎ、地域密着型プロスポーツチームの多様な資源や発信力・求心力を、計画全体を動かす横断的な推進軸として活用します。

観戦・体験機会の創出による市民のスポーツ参画、プロ選手・コーチ等の専門性を活かした部活動の地域展開や地域総合型スポーツクラブとの連携、ホームゲーム等を起爆剤とした賑わい創出やスポーツツーリズムの推進、社会課題解決に向けた協働を通じて、基本目標1から4の取組を一気通貫で強化・展開し、プロチームとの共創による相乗効果(シナジー)を高め、魅力あふれる地域社会の形成を目指します。

### **<施策の柱>**

#### **1 プロの専門性を活かした多世代のスポーツ参画【基本目標 1・2・3 と連動】**

- ・ プロの選手やコーチ等の指導力・知見を活用し、子どもから働く世代、高齢者までが親しめる運動機会(健康体操・各種運動教室等)を提供します。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ等への指導者派遣やノウハウ共有、部活動地域展開への協力などを通じて、多世代の生涯スポーツを支える環境の充実を図ります。

#### **2 観戦体験の創出とスタジアム・アリーナを核とした賑わいの推進【基本目標 1・4 と連動】**

- ・ 市民招待やパブリックビューイング等の開催を通じて、観戦のきっかけをつくり、スポーツ文化の醸成を図ります。
- ・ プロリーグ改革の動きやアリーナ高機能化の機運を捉え、スタジアム・アリーナ周辺を核とした交流・賑わいの拠点(スポーツコンプレックス)の形成など、スポーツを軸とした産業連携体制の構築を推進します。

#### **3 共創・協働による地域課題の解決とシビックプライドの醸成【全基本目標共通】**

- ・ プロチームの高い知名度や発信力を活かし、福祉・教育・環境・防災など多分野にわたる地域課題解決(SDGs の推進等)に向けた協働事業を展開します。
- ・ スポーツボランティア活動の推進や、市民とプロチームとの触れ合いを通じて、地域への愛着や誇り(シビックプライド)の向上を図ります。

### 3 施策体系

#### 【総合計画】

<目指す姿> スポーツを通してまちに活力が生まれている

政策1 誰もがスポーツを楽しめる環境づくりの推進／政策2 スポーツを通じた交流拡大の推進

政策3 スポーツを活かした地域経済の振興

#### 【本計画】

<目指す姿> スポーツを通してまちに活力が生まれている ～スポーツの力で人と地域を元気にする～

| 政策1 | 政策2 | 政策3 |                                |                           |
|-----|-----|-----|--------------------------------|---------------------------|
|     |     |     | 基本目標1 スポーツをしたい人があきらめない環境の実現    |                           |
| ○   |     |     | 1-1                            | ライフステージに応じたスポーツ機会の創出      |
| ○   |     |     | 1-2                            | 地域における身近なスポーツ活動の推進        |
| ○   |     |     | 1-3                            | 部活動の地域展開                  |
| ○   |     |     | 1-4                            | 競技スポーツの普及と競技力の向上          |
| ○   |     |     | 1-5                            | 障害者スポーツの普及とインクルーシブ環境の整備   |
|     |     |     | 基本目標2 スポーツの多様な価値を活かした地域活性化の推進  |                           |
| ○   |     |     | 2-1                            | スポーツを通じた健康づくり             |
| ○   | ○   |     | 2-2                            | スポーツを通じた「居場所」と「つながり」の創出   |
|     |     |     | 基本目標3 スポーツによる賑わいづくりと地域経済の活性化   |                           |
|     | ○   | ○   | 3-1                            | 大規模大会及びスポーツ合宿の誘致促進        |
|     | ○   | ○   | 3-2                            | オリンピックレガシーを活かしたアイススポーツの振興 |
|     | ○   | ○   | 3-3                            | 地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進     |
|     |     |     | 基本目標4 持続可能なスポーツ施設マネジメントと利便性の向上 |                           |
| ○   | ○   | ○   | 4-1                            | スポーツ施設の適正配置と長寿命化          |
| ○   | ○   | ○   | 4-2                            | 民間活力の活用と持続可能な施設運営         |
| ○   | ○   | ○   | 4-3                            | 大規模施設等の多目的利用と収支改善         |
| ○   | ○   | ○   | 4-4                            | スポーツ DX の推進と利便性向上         |

#### 基本目標5 【横断的施策】プロスポーツチームとの連携強化による地域価値の共創

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 5-1 | プロの専門性を活かした多世代のスポーツ参画         |
| 5-2 | 観戦体験の創出とスタジアム・アリーナを核とした賑わいの推進 |
| 5-3 | 共創・協働による地域課題の解決とシビックプライドの醸成   |